四季工房のいまを伝えるコミュニケーション情報誌

おりじん

[O・R・I・J・I・N]

2014年 夏号

発行／（株）四季工房「おりじん」編集室
〒963-0115 郡山市南二丁目84番地
TEL024-937-6351 FAX024-937-6341
http://www.sikikobo.co.jp

郡山中央展示場 8月にいよいよオープン

みんなカッコいいよ!

たくましくなってきた大工育成塾生。左から越田尊心、池野達正、坂井弘樹、鈴木優介

四季工房の未来に向けて

8月、郡山中央展示場が新築オープンする。矩勾配（かねこうばい）の屋根が印象的な以前の建物は平成17年4月のオープン、今回は9年振りの建て替えとなる。新しい建物のテーマは「四季工房が提案する新しい二世帯住宅」その特徴は次の4つである。

①縦割りの二世帯住宅

二世帯住宅の多くは親世帯と子世帯が1、2階の上下に分かれる。中央展示場は平屋部分に親、子世帯は2階建部分に住まう縦割りの設計である。上下で分けた場合、親が使わなくなった時困ってしまうという声が多いが、縦割りは身内や親しい人に貸して住んでもらうことが可能になる。また、音の問題が解消されるのも縦割りの良さである。互いの気配を感じながら不要な気兼ねをせずに生活できるのではないだろうか。

縦割りは土地に余裕がないと出来ないと諦めないでほしい。小さな土地でも意外と実現できるので、ぜひご相談ください。

②共用部分で親と子、孫世代の触れ合いを広げる。

二世帯住宅の共有スペースをどこにするか…。この建物では土間（板張り）を共有部にした。土間の薪ストーブを中心に三世代が団欒する姿が目に浮かぶ。

（次ページへ続く）

WSSAお引越し、木ごころと一緒になって新装オープン。

6月3日、木の祭りに合わせて新装オープンした木ごころ＆WSSA。

木ごころには漆喰壁と無垢の床が何とも心地よい四季工房ならではの空間があります。それを肌で感じながらキッチンやリビングのブースに足を進めると、選び抜かれた素材とデザイン、WSSAならではの家具と小物がコーディネートされています。

例えば天然無垢材のアイランドキッチン「KURIYA」の脇にはスタッフ一押しのリラクテーブルセット、天井には1点物の照明が柔らかに灯り、飾り棚には同じ作家のガラスの器が並んでおり、それぞれが持ち味をさりげなく主張しています。

和室の畳には手織りのキリムを敷き、チェストとソファを置きました。昼は障子越しの光、夜はアイアンの行灯の光で、和洋のテイストが調和する空間が生まれました。もちろんリビングにもこだわりのインテリアをご提案しています。

しかし、ややもすると味のある家具たちに押され気味のように感じるかもしれませんが、決してそうではありません。四季工房自慢のキッチンや水回りの展示も充実しており、いつでもリフォームの相談をお受けしています。

最近は新築や結婚のプレゼントにと時計や器を見に来られる方も増えています。私たちスタッフが心からお待ちしておりますのでどうぞお気軽にお立ち寄りください。

木GOCORO 木ごころ & WSSA

郡山市菜根四丁目16-1
TEL.024-933-1448
営業時間／AM10:00 ～ PM7:00
定休日／毎週水曜日

ひかり ファーム 通信

いよいよ夏野菜の収穫が始まります。

7月収穫予定 じゃがいも・いんげん・なす・きゅうり・トマト・ピーマン・セロリ・各種ハーブ等

8月収穫予定 とうもろこし・枝豆・パプリカ・かぼちゃ・みょうが・オクラ等

夏野菜の注文をお受けいたします。親しい方への贈り物としても喜ばれています。詳細は、通販のご案内を同封いたしましたのでご覧ください。

鈴木光一さんから農業指導を受けました。すでに秋、冬の作付けの準備が始まっています。

ご注文・お問い合わせ・カタログ請求　平田加工場　担当：矢吹
TEL 0247-55-3280　FAX 0247-55-3168

編集後記

新築のリポートでお訪ねした石井和彦様のお母様、歌子さんは今年92歳。仙台から横浜まで一人で出掛け、老眼鏡なしで新聞を読む。柔和な笑顔とウイットに富んだ発言。人生の先輩はすごいと感心しきり。

春に白い可憐な花を咲かせるエゴ、これは新築時に和彦さんが植えた言わば三代目の木。二代目は亡くなったご主人が植えた藤や月桂樹、初代はお父さまが植えた松や楓、珍しい八重のツツジというように、石井家には三世代に渡る樹木がどの部屋からも見えるように植えられており、これらについて語る笑顔が格別であった。中でも、ご自分のお部屋から見える三代目のエゴがこよなく好きと言い、隣で和彦さんが誇らしげに胸を張るのが何とも微笑ましい。

「単身赴任続きで、木や花を眺める余裕もなかった息子が花を愛で、お客様に自慢するようになりました。まるで、生まれた時から花が大好きだったように。可笑しいわよね」

あの笑顔にまた会いたいと思う。

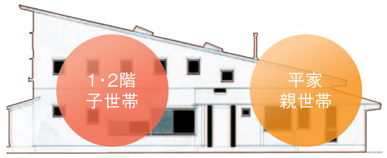
（望月）

③水回りとキッチンはそれぞれ独立させ、プライバシーを確保

キッチンと水回りを敢えて独立させたのは、生活スタイルの違いが如実に現れる場所と考えたからである。それぞれが気遣いをせずリラックスした時間を過ごせるように配慮した。

④斬新な片流れの外観

ダイナミックな片流れの屋根が一際目につく美しい外観の建物である。



オープン日は混雑が予想されますので、OB様内覧会は日をずらしてご案内いたします。どうぞお越しください。

◎OB様内覧会／7月26(土)、27(日)
◎本オープン／8月2(土)、3(日)
新築をお考えのお友だちを連れてご来場くださった方にプレゼントを用意しています。

地域を元気にする、それは職人さんの復権から。

「一体施工」を旗印に社内改革を進め、「職人さんと社員が互いに力を合わせ、お客様のためにより良い家をつくろう」と呼びかけ取り組んできた。このことに双方が一定の理解を示し、それなりの効果は上がったと思う。しかし、やはり社員と非社員である職人さんや取引業者さんの立場は別であると痛感し、限界を感じたのも事実である。

それならいっそのこと大工さんや職人さんを社員化したらどうだろう…。

工務店や建設業界では売上高の割に社員数が少ない。これは、施工をする職人(大手メーカーは下請け工務店)を社員として数えていないからだ。仕事がある時は頼むが、仕事のない時は知らんぷり。支払いを少なくし己の身を守るという御都合主義に徹してきたのだ。当然、職人さんや取引会社の収入は不安定となり、廃業に追い込まれる建築関係の人々や会社が多くなる。将来職人さんを目指す若者も減る。

東北地方では東日本大震災の復興需要で職人不足が露呈した。景気が上向いてきたことも合わせ、今や職人不足は益々深刻化し、その数は全国で400万人とも言われている。福島県ではそこに除染作業が重なりさらに深刻な状況である。

しかし職人不足の本当の理由は別なところにあるのではと考える。30～40年前頃から、プレハブや2×4工法の台頭、新建材が多く出回るなど建築仕事の合理化によって職人さんの仕事は一気に減っていった。特に建具と左官の仕事減が著しい。また、大工の仕事はプレカットの普及により、本当の大工仕事が出来る職人はほんの僅かになってしまった(そのほとんどが四季工房にいると言われているが)

我々四季工房は、職人さんを元気にし地域を活性化するという「地域循環型の社会づくり」のポリシーを持って、本物の木を使い職人さんの手仕事による家づくりに徹してきた。さらに大工育成塾をつくり若手を育てて来たので、職人不足をそれ程感じずにいる。また塾生が社員なのに、預かってくれる親方がそうでないという矛盾を解決するため、3人の大工さんを社員化し様子を見てきた。

今こそ職人さんと会社が一体となる時である。これから先、やがて復興需要の終わりによって、仕事が少なくなっても皆の力を合わせれば何とかなると信じる。要は覚悟を決めて進むことだ。

「若手の会」は50人を超え、ますます元気に。

四季工房の誇れることの一つは若手職人が元気であること。親の代に四季工房で働いてくれた職人さんの息子たちとなる若者の数が多いのは特に嬉しい。会社の仕事に魅力を感じてくれなければあり得ないからだ。現在、21人の社員大工さんを含め、50人を超える会になった。四季工房の未来のためにこれほど心強い味方はない。そして、そんな彼らのために、もっと夢と希望のある会社にしなければと決意を新たにしている。

1月の沖縄旅行に続き、9月初めには1泊2日の研修旅行を予定している。若者たちとどんな夢を語り合えるのか今から楽しみである。

㈱四季工房　代表取締役　野崎進

大人気の手作りベンチ・ストッカーをGet! 大工さんとニッコリ!

左上／行灯(あんどん)を組み立てる遠藤大工さんの手元をじっと見つめる。
右上／大人も汗だく、のこ引き競争!
右下／楽しい餅つきに声援がとぶ。
左下／大河内さんの手ほどきで壁ぬり体験。

東京・埼玉支店　来場者数／45組

OBさんの声
・大工さん、職人さんやフォロースタッフさんに久しぶりに会えて懐かしかった。
・スタッフの方の気遣いが嬉しかった。

郡山本社　来場者数／209組

OBさんの声
・植栽を手ごろな価格で購入できてよかった。
・薪コーナー、廃材コーナーがなかったのが残念でした。

上／この堂々たる腰つき、将来は上杉さんのような職人さん!
下／仙台はあいにくの雨…。でも楽しい!

たくさんのご来場ありがとうございました!

木の祭り & 感謝祭

5月31日～6月8日、郡山本社・東京・栃木・宮城の各支店で開催。

真夏日(郡山・東京)も大雨(宮城・栃木)もありましたが、子どもたちの明るい表情が溢れていました。職人さんや社員との再会を喜び、触れ合う姿は毎年のことながら嬉しいものでした。

木工教室大盛況! 皆さんの真剣さが伝わってきました。

宮城支店　来場者数／90組

OBさんの声
・大雨で残念でしたが、スタッフの方々の熱気で雨天も感じさせない楽しいひと時となりました。
・タイル並べ競争での安住さんの司会がとてもよく似合っていました。

栃木支店　来場者数／36組

OBさんの声
・大工さん・職人さんに久しぶりに会えて嬉しかった。家づくりした頃の気持ちを思い出しました。
・メンテナンスについて職人さんに直接お話を聞けてとても参考になりました。

四季工房社員、業者さん合同大会が行われました。

5月14、15日 那須

東日本大震災の年に「みんなで力を合わせて乗り越えよう!」とスタートし、今年で4回目となる合同大会。年を重ねるごとに親密で楽しい会となっています。

ソフトボール大会優勝は郡山Fチーム!

大物を釣り得意気な加工場の関根くんと大山くん。

菅野大工さんナイスピッチング!

四季工房のフレッシュ看板ムスメたち。

新築の住まいを訪ねて

憧れていた家族とのゆったりした時間 自然の道理にかなった家

〈仙台市〉石井様邸

❶・❷／全開型サッシを開けるとリビング、デッキ、庭が一体となり、開放的な空間が広がる。

図／加藤友紀

❸／建物を斜めに配した外観は、住宅街の中で一際堂々と見える。
❹／薪ストーブ側のサッシを開けると裏庭に出る。可憐な八重のツツジが愛らしい。
❺／玄関には地窓を設け、外の光と景色を取り込んだ。

❻／縁側には柔らかい陽が差し込み、毎日お祖母ちゃんが新聞を読むお気に入りの場所に。

「前の家は、冬の午後早々に陽が入らなくなり寒々としていたので、暖かい家にしたかった」と語るご主人。その要望に応えるべく当社は敷地に対して建物をやや西向きにした設計を提案しました。迷うご主人の背中を押したのは奥様と92歳のお母様。「中に住んだら斜めなんて分からない」「子ども時代に過ごした若林の家の縁側の暖かさが忘れられない」

住んでみて全てが理にかなっていると喜んで頂きました。建物を斜めに配して生まれた敷地の角には大小の庭をつくり、それが見えるように窓を配置しました。窓からの景色がご家族の何よりの楽しみとなり、四季折々の花々を楽しみ実をついばむ小鳥の姿に会話が弾みます。2階から見える街並が一変し、隣家との垣根越しの会話が増えました。もちろん、夏の日差しは短く、逆に冬は長くなり、リビングは最高の居心地に。来客が長居をするようになったそうです。

新築にあたり庭も大改修、緻密な計算のもと、以前の庭にあった樹木を生かした上で新しいものが植えられました。100年の樹齢を誇る松や楓と可憐な花を咲かせる新入りのエゴの木が違和感なく調和しています。

❼／母の寝室から楽しめるのは新たに植樹されたエゴ。春に真っ白い花を咲かせた。

木gocoroの リフォーム

東京都武蔵野市 T様邸

・以前はマンションにお住まい
・築20年の中古住宅（約45坪）を購入しリフォーム
・ご家族はご主人、奥様、大学生のお嬢様の3人

リフォームの理由

①庭付きで、大好きな木と自然素材を使った家に住みたい。
②間取りを明るく開放的にし、スッキリと暮らしたい。
③ＬＤＫが家の中心になり、家族が自然に集まりずっと居たくなるような空間にしたい。

大好きな国産無垢材を使ったきれいな空気。友人が「ずっと居たい」と言ってくれます。

左上／階段を上がった先にあった壁を取り除きオープンスペースにした。元々あった天窓からの光を生かした明るいホールに生まれ変わり、訪れた方々からダイナミックなリフォームと大好評。
右上／1階にあった小部屋をなくして23帖のリビングに。壁を化粧筋違い（すじかい）に変え、キッチンからすべてを見渡せる開放的な間取りに生まれ変わった。
右下／木と漆喰のバランスが丁度よく、気持ちの良い住み心地に。
中下・左下／2階に水回りを集め家事の動線がスッキリ。とても使いやすいと奥様。

リフォームを決断されるお客様の理由は様々です。ここでは敢えて庭付きの中古住宅を選んだT様を紹介しました。他に、「住み継いだ家への強い愛着」を持ち、旧宅の解体作業時に涙を流す方もおります。私はそういった気持ちに寄り添い、リフォームのお手伝いができればと考えています。そして、その中身は新築に近いレベルまで追求したものをお薦めしています。

「光の入り方」「風の流れ方」を考えた間取り、国産無垢材と自然素材を使ったやさしさと心地よさ。確かな技による断熱と耐震施工、これらを実現できるのは注文住宅の実績を積んだ四季工房だからこそと自負しています。

（吉田賢太郎〈木ごころ東京〉）

このような例も

リフォームによってぐっすり眠れる寝室になりました。

〈福島県〉

オーディオルームとして使用していた部屋を寝室にリフォーム。フローリングの床にカーペットを敷き、家具と小物をトータルコーディネートした。

四季工房を
支える人々
その③

設備屋さんと語る
家が完成した時に大部分が隠れてしまうのが設備屋の仕事、だからこそ遣り甲斐と喜びがある。

出席者／二瓶俊也さん（㈱若佐住設）・菅野憲一さん（㈱ジェイエス）・芳賀元春さん（㈱芳賀設備）・笠間裕人さん（有笠間設備工業）　進行／塩田浩平（施工リーダー）

「設備屋さん」は上下水道設備に携わる業種です。座談会のお願いに「いいよ！」と即答、「ゆいの郷」に集まってくださいました。個性豊かなお人柄を引き出す塩田さんの進行のもと和やかな座談会となりました。

設備屋さんの仕事について。

菅野　設備屋は言い換えれば「隙間産業」基礎工事でコンクリートを流す前、床と天井を張る前、水回りの仕上げ、外構工事の時というように全工程の隙間を埋めるように給排水の工事をしていきます。施工の進み具合を常に確認しながらの仕事です。

笠間　しかも俺たちの仕事は地下や床、天井に埋まってしまい、表にはなかなか出ない。左官屋さんや建具屋さんと比べたら地味ともいえるね。

塩田　設備屋さんの仕事は地面、床下、天井を相手に掘る潜るなどして管を繋いでいきます。しかも完璧にやって当たり前。以前、凍結で破裂した水道管を修理するため、冷水の中に身体ごと飛び込んでの作業を見て、これはキツイと思いました。

二瓶さん／仕事スイッチが入った瞬間スゴイ！

進行／塩田浩平

二瓶　いやいや、それはキツイ部類に入らないかも。配管詰まりの臭いもキツイし、狭い床下に潜るのも、夜中に緊急で駆け付けることも…。

芳賀　寒いのも暑いのも半端じゃない。夏は設備屋が一番黒くなる。でも一方で漏水の原因箇所を3日間も這いつくばってようやく見つけた瞬間は超嬉しいよね。

そんな設備屋さんの仕事に就いたきっかけ、仕事を支える思いについて。

菅野　俺のきっかけは手相で「水仕事が合っている」と言われた。（爆笑）

芳賀　家づくりに関することは一通りやり、オールマイティを目指した結果、最後に設備屋に行き着きました。

二瓶　人の生活の礎（いしずえ）となる仕事をしているという誇りです。

笠間　自分は4人の中で唯一、設備屋の二代目。親父の仕事を見て育ち、キツイけれど自分に合っていると思って。今でも「家を建てるには俺がいないとダメじゃん！」という気持ちがあります。

芳賀　四季工房では竣工時、設備屋も立ち会わせてくれます。完成した建物を前に大工さんや他の業者さんと共に工事を振り返る時、一番の幸せを感じます。

二瓶　そうそう！他のハウスメーカーにそれはないからね。

笠間　自分たちの仕事に最後まで責任を持っている！という自覚が強くなる。

芳賀さん／バイク大好きのチョイ悪オヤジ

菅野　家づくりに関われた喜びを分かち合い共有できるのも嬉しい。だからこそ一生懸命仕事をやろうと思うよ。

菅野さん／別名「いわきの大魔神」

塩田　菅野さんと芳賀さんはご自身の家も四季工房で建ててくださったOBさんでもありますが、理由はそんなところにもあるのですね。

芳賀　そういう会社なら間違いがないと思ってお願いしたのです。

設備屋さんの一番の喜びは。

二瓶　引き渡しの後、家に入って初めて水道を捻って水が出た時のお客さんの嬉しそうな表情が好きです。

笠間　引き渡しの翌日伺った時、「いやー、夕べの初風呂は気持ち良かったよ！ヒノキの香りに包まれて最高だった」と言われるのも嬉しいね。

笠間さん／ゴルフのライバルは野崎社長

菅野　そのお風呂のお湯は俺たちが繋いだのだから、嬉しさも格別!!

塩田　設備屋さんは工期を通して関わる分、やり取りも多くなります。設備に関すること以外にもたくさんのアドバイスを貰えて、ボクらはとても勉強になります。

震災後の1年半くらいは寝ずに仕事をしたという設備屋さん。穏やかな表情と控えめな発言の中に確固たる使命感が溢れていました。そして程ほどの茶目っ気がとっても魅力的でした。

OBの広場
どうぞ あがらんしょ

こだわりが詰まった自慢の家！
お気に入りの場所に夫婦でいつもたむろしています。

築16年目、亀山格彦さん・昌子さん〈郡山市〉宅を訪ねて

郡山市郊外の住宅街にある亀山邸、今年で16回目の春を迎えました。国道4号線からすぐ、近くに大きな病院があるにも関わらず、敷地に一歩入ると静寂と爽やかな風が身を包みます。木組みの車庫、手入れの行き届いた樹木と花、庭に置かれたオブジェが母屋の雰囲気と調和し、その趣はまるで京都の小さなお寺のようです。

「四季工房の家」出会いは奥様、のめり込んだのはご主人。

ハウジング夢通りで四季工房の家を見た奥様、「その時の衝撃は忘れられません。あんなに沢山の木が使われている家は初めて見ましたので」と振り返ります。一方、ご主人はエアパス工法にやや疑念をお持ちでした。しかし、平田村での実験に立ち会いビックリ！「壁に手を入れたら本当に空気が流れていたんです。〈凄い！〉の一言でした」

前のお住まいでは白檀の香りを焚いて楽しんでいた格彦さん、「木」がとにかく好き。設計を建築家の小林一元さんにお願いし、とことん木にこだわった家づくりにのめり込んでいきました。当時を振り返り「営業さんが来てくれるタイミングが私たちにとっては丁度良かった。自分たちでじっくり検討する時間が欲しかったからあまり煩わしくてもね。野崎社長も何回か来てくれて熱心に相談にのってくれましたよ」と懐かしそうに話してくださいました。

こだわりの家の住み心地について奥様は「夏の涼さは格別！網戸では朝は寒いくらい」ご主人「木の香りと、どこにいても家族が何をしているか分かるのがいい」この言葉に奥様が少しだけ反論、「リタイアして一緒にいる時間が長くなってから、気配が分かりすぎるような気がするの。でも、さらに年月を重ねたらそれが安心になるかもね…」山登りやサイクリングなどアクティブに楽しむ二人はいつも一緒、だからこそ一人の空間を大切にしたいのかもしれません。

インテリアもお手製の小物も木の家だから溶け込みます。

お二人の「この家のたたずまいと雰囲気いいでしょう！」の言葉は2階を見せていただき実感しました。書斎と寝室がオープンの大きな一間、吹き抜けに面した一枚板の立派なカウンターを中心に、膨大な書籍や資料を収納する書架、ソファー、小さなキッチンまであり、樹木の緑が窓に美しく映え山小屋にいるようです。「一日の大半を二人でここに屯（たむろ）しているんです」お気に入りの大人の基地で屯する生活、同行した阿部孝子さんが羨ましそうにうなずいていました。

さらに亀山家に彩りを添えているご主人お手製の作品を紹介しないわけにはいきません。ティッシュボックス、収納ボックス、掘り炬燵に敷いた「すのこ」、お孫さん用の小さな椅子、蕎麦や天麩羅が似合う器、蒸しせいろ…きりがない程です。

驚くのは、それらの材料が家を建てた時の端材や床板の残りであること、家に溶け込んでいるのは当然です。物置を兼ねたガレージには16年の時を経た端材が今も大切に保管され、次の出番を静かに待っていました。

亀山家は檜の浴室を一度もメンテナンスしていません。新築時からカビないように家族で塗装するなど手をかけた結果です。ここにも格彦さんの木に対する愛着が現れています。

お二人が終始声を揃えていた言葉。「木の家だからこその生活を楽しみ、その楽しみをさらに広げることができました。これからもこの暮らしをずっと楽しんでいきます」

スモーキーな香りが魅惑の「キーモン」のミルクティのような味わいのあるお話、御馳走様でした。（リポート／望月）